

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:22.

長期入院となった子どもをもつ父親の生活の変化の実態と医療者に対するニーズ

及川 冬華, 三浦 有穂子, 北出 瑞貴

長期入院となった子どもをもつ父親の生活の変化の実態と医療者に対するニーズ

旭川医科大学病院 4階西ナーステーション
○及川 冬華 三浦 有穂子 北出 瑞貴

【目的】 A病院小児病棟では母親が付き添い者であることが多く父親が入院生活に直接関わるものが少ない。また父親は、入院している子どもと母の精神的・身体的サポートの役割も迫られるが、父親自身の負担が増える中での休養の時間は十分にとれず心身ともに厳しい状況になると考えられる。そこで、長期入院となった子どもをもつ父親の生活の変化の実態と医療者に対するニーズを明らかにし、看護について検討することを本研究の目的とする。

【方法】 平成26年4月～平成28年7月に、A病院小児病棟に2週間以上母親が付き添い入院していた子どもの父親89名を対象に、質問紙調査を行った。本研究は当該施設の倫理審査委員会の承認を得て実施している。

【結果】 回収は33名（回収率37%）。子どもが患児のみの一人である父親は42.4%患児以外にも子どもがいる父親は57.6%。子どもの入院中、家事に費やす時間が増加した父親は63.6%、減少した父親は3%、変化なしは27%。育児については患児に同胞がいる場合のみとし、育児に費やす時間が増加した父親は47.3%、減少した父親は31.5%、変化なしは21%。体調の変化について同胞の有無で比較すると患児に同胞がいる父親は身体面、精神面ともに入院前と比較し症状が出現していた。また身体面において、就学前の同胞がいる父親は疲れやすいと回答している割合が多かった。入院前と比較し睡眠時間が延長した父親は0%、短縮したのは30.3%、変化なしは69%であり、同胞の年齢別で比較すると、患児に就学前の同胞がいる父親の睡眠時間が短縮されている傾向にあった。

【考察】 父親は子どもの入院中に家事や育児時間の増加に伴い、身体・精神面の負担も増加することが考えられ、さらに患児に同胞がいる父親はそれらの症状が顕著である。長期入院となった子どもをもつ父親は経済的役割以外に家事や育児を自身の役割として強く認識していることが考えられる。医療者は入院している子どもに付き添う母親だけではなく、父親の身体・精神面にも配慮し自宅での家事や育児についても相談できる機会を設け、負担が増加している場合には周りの協力を得られるよう支援していく必要がある。また父親は家事や育児以外に仕事もあり、面会に来る時間も限られていることから患児の病状や治療方針について情報を得ることが困難となることが予測される。看護師は付き添いする母親だけでなく父親に対しても患児の疾患や退院後の生活について知識獲得の手助けを行うことや、医師からの説明時には父親の参加を促し時間調整を意識的に行う必要があると考える。入院が長期にわたると予測される患児の同胞は、母親が不在による影響から退行現象や反抗的態度が見られたとの報告もあり、父親の身体・精神面の負担の軽減のためにも入院中に母親と同胞の時間を作れるように配慮するなど、同胞の情緒的安定のために家族で過ごす時間を持てるよう意識的に関わる大切であると考えられる。両親は入院中の患児の病状や将来について、また自宅にいる同胞の精神面など様々な不安や心配があるため医療者は両親の思いを傾聴し、ニーズを把握した上で支援していくことが重要である。